



国指定天然記念物

# 山高神代ザクラ

山高神代ザクラは樹齢2,000年ともいわれるエドヒガンの古木です。1922年に桜として初めて国指定の天然記念物となりました。

Yamataka Jindai Zakura is an old Edohigan cherry tree (*prunus spachiana*), estimated as old as 2000 year-old. This tree is the first cherry tree designated as a natural monument by Japanese government in 1922.

北杜市教育委員会

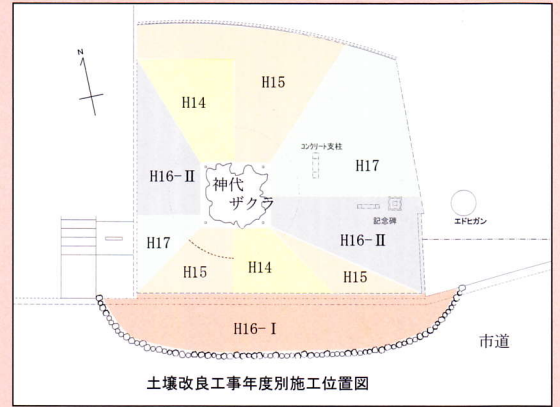
# 神代ザクラ天然記念物再生事業の概要

昭和23年には「3年以内に枯死する」という宣告を受け、その後急速に樹勢が衰えてきた神代ザクラの再生をめざして山高神代ザクラ樹勢回復工事が行われました。

平成13年度までの詳細な調査により、神代ザクラの樹勢の衰弱は根圏における環境の急変や悪化が最も大きく影響しているものと考えられました。

このような状況から大規模な土壌の入れ替えにより、有用な土壌微生物により土壌の生物性を高め樹勢回復につなげることで、微生物相が持続するように土壌をコントロールすること、枯れた幹の根元の保全や発根にも十分配慮することとしました。

土壌改良工事は平成14年度から平成17年度までの4ヶ年にわたり神代ザクラへの影響を考慮しながら進められました。



▲ 完熟堆肥やボカシ肥、ピートモス、朽殻くん炭、カニガラを混ぜた有用土壌微生物に富んだ培養土です。

有用微生物を含んだ培養土をつくり、既存の土と入れ替えます。土は発酵を促すため1ヶ月ほどねかせます。



▲ 考古学的調査も一部で行われました。地山の上に施工された盛土のようすが明らかになりました。



▲ 根のまわりの土を丁寧に取り除きます。

▲ 乾燥を防ぐため水苔を巻き養生します。

▲ 古い太い根が出てきましたが全て枯れていました。

根のまわりの土を丁寧に取り除きます。出てきた根は水苔を巻いて乾燥を防ぎ、丁寧に養生します。根の多くはネコブセンチュウ病にかかってボロボロの状態でした。培養土に入れ替えたことにより力強い根の伸長が見られました。



▲ ネコブセンチュウ病にかかったボロボロの根。

▲ 3年で2.5mの根の伸長が見られました。

▲ 確認されていなかった根が下から持ち上がり力強い回復が見られました。



▲ 樹勢回復検討委員会のように。回復の確認も真剣に行われました。

樹勢回復工事の内容は「神代ザクラ樹勢回復検討委員会」で慎重に検討され、工事施行の際の確認も真剣に行われました。工事の内容は一般にも公開され、住民の関心が高いことが窺われました。併せて将来を引き継ぐ子どもたちにも工事の内容の説明をしました。子どもたちの輝く目が印象的でした。

工事の公開のようす。子どもたちにも工事の内容を解説しました。



# 写真でたどる 山高神代ザクラの変遷



▲明治37年に発行された日本社寺明鑑に描かれた実相寺のようす  
現存する建物との比較から正確に書かれたものであることがわかります

山高神代ザクラの極盛期は幕末から明治初期と  
考えられています。その当時の写真は残念ながら  
残されていませんが、明治40年のものが幸い残さ  
れていました。極盛期を過ぎたとはいえ威風堂々  
たるものです。

大正11年の国の天然記念物の指定を機にコンク  
リートの囲柵や石積がされるなど発育条件が阻害  
され、次第に樹勢は衰えていきました。

次第に樹勢が衰えてゆく神代ザクラは昭和23年  
に「3年以内に枯死」という宣告を受けました。



▲明治40（1907）年 武田千代三郎山梨県知事を迎えた観桜会 溝口正弘氏提供



▲大正年間  
内務省1926『天然紀然物調査報告』より



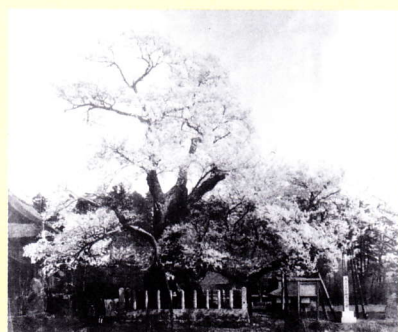
▲大正年間 甲府市宮井商会発行

▲大正年間

曇りつつ 風ある花の こずゑかな 蛇笏



▲昭和5年



▲ 昭和初期



▲昭和初期



▲昭和初期



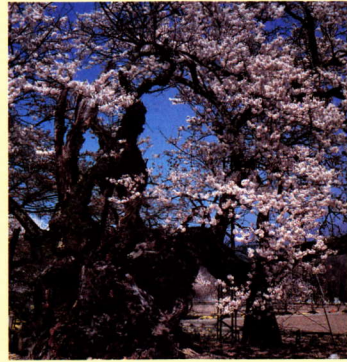
▲昭和26年



昭和34年 台風7号の被害のようす ▶



▲昭和50年頃のようす



▲昭和60年頃のようす



▲土壌改良工事の直前のようす

昭和34年8月、台風7号が武川村を襲いました。死者13名、行方不明者10名という痛ましい被害をもたらしました。この台風により神代ザクラも主幹が折れるという大きな被害を受けました。樹齢2000年ともいわれる神代ザクラは過去にもこのような大きな被害を受けてきたことでしょう。

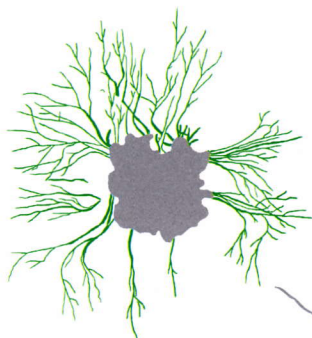
主幹が折れ、すっかり樹形を変えた神代ザクラですが、その後も春には花を付け復興を印象づけました。

高度成長期を迎えると隣接する道路を車が頻繁に往来するようになり、樹勢への影響は深刻なものとなりました。ついに昭和59年には樹形を維持するために櫓を設置しなければならなくなりました。

### 神代ザクラの枝と根の分布



▲地上部の枝の分布



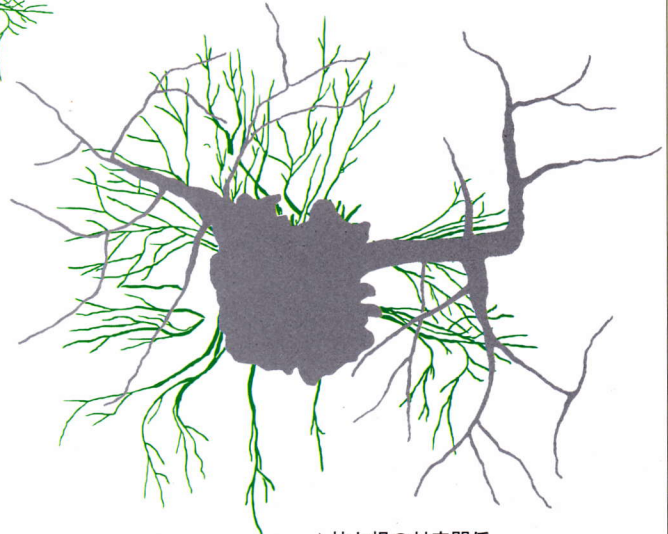
▲土壌改良工事によりわかった根の分布

今回の樹勢回復工事で神代ザクラの根のまわりを全面にわたって土の入れ替えを行いました。その際、根がどのように分布しているかよく観察することができました。

その結果、根と枝の分布が対応していることがわかりました。つまり、今後、根を回復させ、伸ばしてやることで枝、地上部の回復が図られること、その道筋がより明確になったといえるでしょう。

根を養うことが木を養うことなのです。今後の力強い回復を祈ります。

\*このように生きている巨樹・巨木の根の分布が明らかになるのは例が無く、学術的に貴重な資料となります。また、今後、神代ザクラの樹勢回復を検証する上でも貴重な資料となります。



▲枝と根の対応関係



山高神代ザクラ天然記念物再生事業完了後の開花状況（2006年4月）



▲ 山高神代ザクラの花

神代ザクラの大きさ

計測部位	測定値（m）			
	大正11（1922）年	平成14（2002）年	平成18（2006）年	
樹高	—	10.24	10.30	
根元周	13.50	12.78	11.80	
枝張り	東西方向	27.00	17.10	17.30
	南北方向	30.60	12.40	13.00



4月6日 開花



4月8日



4月12日 満開



4月14日



4月20日



4月21日



4月27日



5月5日



5月24日



6月18日



7月20日



8月26日



9月15日



10月14日



11月18日



12月2日



3月13日



3月17日



3月25日



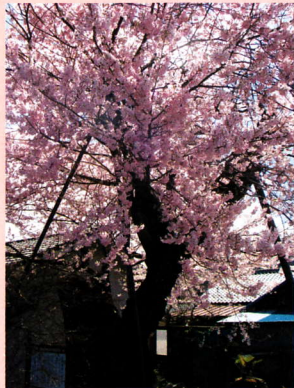
3月31日

山高神代ザクラのライフサイクル

平成17年度の1年間の変遷を追いました。花の時期以外は身近にあっても意外に見えないものです。1年間の変化のようすをご覧ください。



神田の大イトザクラ



白州殿町のサクラ



熱那神社のサクラ



関のサクラ



東原のイトザクラ



清春のサクラ群



山高のエドヒガン



龍角のシダレザクラ



下黒沢のサクラ



洪沢のシダレザクラ



真原のサクラ並木



清光寺のシダレザクラ

## 北杜市のサクラ

\* 個人宅にあるものもあります。見学の際にはマナーに注意しましょう。



小淵沢高野のシダレザクラ



蕪のサクラ並木



谷戸城跡のサクラ

長い間 私たちは自然と深い関わりを持って暮らしてきました。日本の風土や文化を育ててきた地域にある様々な自然は、私たちの貴重な財産なのです。中でも天然記念物は、学術上貴重で、私たちの国の自然を記念するものとして指定されたものです。

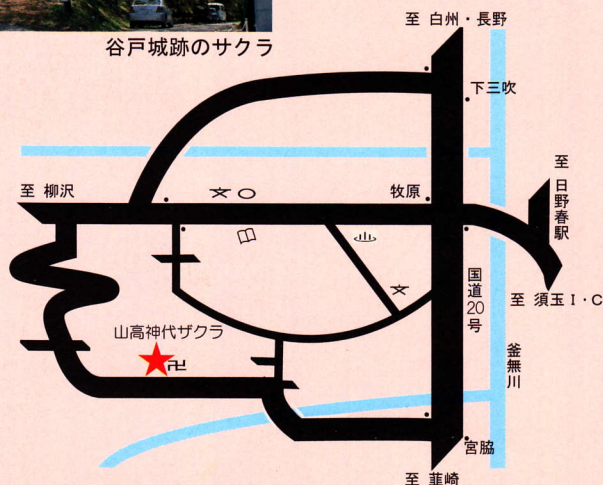
天然記念物を守るため、様々な規制がかけられていることから、「天然記念物は触れてはいけない」というイメージが持たれ、天然記念物と地域住民との距離が遠くなってしまうこともあります。天然記念物は地域の自然と文化の結びつきを知るとても良い素材です。天然記念物を知り、これを守ることを通じて新しい地域の結びつきが生まれることと思います。

定価 100円

このパンフレットの収益金は市内の文化財保護に役立てられます。



北杜市教育委員会 学術課  
〒408-0036 北杜市長坂町中丸1996-2  
Tel 0551-42-1375 Fax 0551-32-6497



所在地 北杜市武川町山高2763  
指定年月日 大正11年10月12日